

# 第34期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書  
連 結 注 記 表  
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書  
個 別 注 記 表

(2018年11月1日から2019年10月31日まで)

株式会社 神戸物産

連結株主資本等変動計算書及び連結注記表並びに株主資本等変動計算書及び個別注記表につきましては、法令及び定款第14条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<https://www.kobebussan.co.jp/>）に掲載することにより株主の皆様提供しております。

## 連結株主資本等変動計算書

( 2018年11月1日から )  
( 2019年10月31日まで )

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当期首残高	64	8,162	36,796	△9,913	35,109
当期変動額					
剰余金の配当			△1,734		△1,734
親会社株主に帰属する 当期純利益			12,056		12,056
自己株式の処分		251		271	523
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		△8			△8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	243	10,321	271	10,837
当期末残高	64	8,405	47,118	△9,641	45,946

	その他の包括利益累計額			新 株 予 約 権	非 支 配 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	その他有価証 券評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	△8	△1,478	△1,486	367	5,783	39,774
当期変動額						
剰余金の配当			-			△1,734
親会社株主に帰属する 当期純利益			-			12,056
自己株式の処分			-			523
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動			-			△8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	6	△193	△186	419	△276	△43
当期変動額合計	6	△193	△186	419	△276	10,794
当期末残高	△1	△1,672	△1,673	787	5,507	50,568

注：記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 37社

主要な連結子会社の名称 泰食品㈱

㈱グリーンポーター

㈱朝びき若鶏

㈱ジー・コミュニケーション

㈱ジー・テイスト

#### (連結範囲の変更)

当連結会計年度において、連結子会社である㈱ジー・テイストが㈱湯佐和の株式を取得したことにより子会社としたため、同社を連結の範囲に含めております。

連結子会社である㈱ジー・テイストが㈱DBTを新たに設立したため、同社を連結の範囲に含めております。

連結子会社である㈱ジー・テイストが実質支配力基準により子会社とした㈱ふらんす亭を連結の範囲に含めております。

㈱オースターフーズを吸収合併存続会社として、㈱ソイキューブ及び㈱富士麵業を吸収合併消滅会社とする吸収合併、宮城製粉㈱を吸収合併存続会社として、ほくと食品㈱を吸収合併消滅会社とする吸収合併、㈱麦パン工房を吸収合併存続会社として、㈱エコグリーン埼玉を吸収合併消滅会社とする吸収合併、また、関原酒造㈱を吸収合併存続会社として、㈱ベストリネージュを吸収合併消滅会社とする吸収合併を実施しております。その結果、吸収合併消滅会社の5社を連結子会社から除外しております。

#### (2) 非連結子会社の名称及び連結の範囲から除いた理由

主要な非連結子会社の名称 ㈱ちりり

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模であり、合計の資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、連結の範囲に含めておりません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称及び持分法を適用しない理由

主要な非連結子会社及び関連会社の名称

(非連結子会社) ㈱ちりり

(関連会社) Ginza SushiIchi PTE LTD

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社については、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の範囲から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

〈決算日12月31日〉

(株)神戸物産エコグリーン北海道、神戸物産(香港)有限公司、大連福来休食品有限公司、神戸物産(安丘)食品有限公司、KOBÉ BUSSAN EGYPT Limited Partnership、(株)テンフォー、(株)タケモトフーズ、(株)壁の穴、(株)湯佐和、(株)ふらんす亭

〈決算日1月31日〉

珈琲まめ工房(株)

〈決算日3月31日〉

関原酒造(株)、(株)ジー・コミュニケーション、(株)ジー・テイスト、(株)クック・オペレーション、ギンガシステム(株)、(株)ノーウェア、(株)ジー・アカデミー、(株)敦煌、(株)DBT

〈決算日5月31日〉

豊田乳業(株)

〈決算日7月31日〉

(株)朝びき若鶏、KOBÉ BUSSAN USA, INC.、J. J. DINING, INC.、KB GLOBAL PARTNERS, INC.

〈決算日9月30日〉

(株)オースターフーズ、(株)ターメルトフーズ、秦食品(株)、(株)マスゼン、(株)肉の太公、(株)麦パン工房、宮城製粉(株)、(株)クックイノベーション、Kobebussan Myanmar Co., Ltd.

〈決算日10月31日〉

(有)神戸物産フーズ、(株)グリーンポーター、菊川(株)

連結計算書類の作成に当たって、(株)オースターフーズ、(株)ターメルトフーズ、秦食品(株)、(株)マスゼン、(株)肉の太公、(株)麦パン工房、宮城製粉(株)、(株)クックイノベーション、KOBÉ BUSSAN USA, INC.、J. J. DINING, INC.、KB GLOBAL PARTNERS, INC. については、各社の決算日現在の財務諸表を使用しております。

KOBÉ BUSSAN EGYPT Limited Partnership、(株)テンフォー、(株)タケモトフーズ、(株)壁の穴、(株)湯佐和、(株)ふらんす亭については7月31日現在、神戸物産(香港)有限公司、大連福来休食品有限公司及び神戸物産(安丘)食品有限公司については8月31日現在、(株)神戸物産エコグリーン北海道、関原酒造(株)、(株)ジー・コミュニケーション、(株)ジー・テイスト、(株)クック・オペレーション、ギンガシステム(株)、(株)ノーウェア、(株)ジー・アカデミー、(株)敦煌及び(株)DBTについては9月30日現在、珈琲まめ工房(株)、豊田乳業(株)、(株)朝びき若鶏及びKobebussan Myanmar Co., Ltd. については10月31日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

ただし、連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ①有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

###### ②デリバティブ

時価法によっております。

###### ③たな卸資産

商品

主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

直営店の商品

主として売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

製品・仕掛品・原材料

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

貯蔵品

主として最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は主として定率法（1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）及び2016年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物については定額法）、在外連結子会社は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～39年

機械装置及び運搬具 2～17年

###### ②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）による定額法によっております。

###### ③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### (3) 重要な引当金の計上基準

#### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

#### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

#### ③ 店舗閉鎖損失引当金

店舗閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、合理的に見込まれる損失額を計上しております。

#### ④ 役員株式給付引当金

役員向け株式交付信託による当社株式の交付に備えるため、社内規程に基づき、各取締役が付与したポイントに応じた株式の支給見込額を計上しております。

### (4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### ① 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は仮決算日の直物相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

#### ② 重要なヘッジ会計の方法

##### ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているものについては、特例処理を採用しております。

##### ヘッジ手段とヘッジ対象

借入金支払利息を対象に金利スワップ取引によりヘッジを行っております。

##### ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

##### ヘッジの有効性評価の方法

特例処理の要件を満たしているものについては、有効性の評価を省略しております。

#### ③ のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、金額に重要性が乏しい場合を除き、合理的な見積に基づき、発生年度より20年以内で均等償却しております。

#### ④退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務の額を計上しております。

##### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時において費用処理しております。

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### ⑤消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### (表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度より適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

#### (連結貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	32,751百万円
2. 担保に供されている資産	
建物及び構築物	1,106百万円
土地	3,544百万円
投資その他の資産「その他」(定期預金)	3百万円
計	<u>4,654百万円</u>

上記資産は短期借入金195百万円、長期借入金728百万円、1年内償還予定の社債1,543百万円、社債1,354百万円、未払金0百万円の担保に供しております。

(連結損益計算書に関する注記)

<減損損失>

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

(単位：百万円)

場所	用途	種類	金額
北海道地域	店舗 (2店舗)	建物及び構築物	0
		その他(有形固定資産)	0
	農場	建設仮勘定	1
東北地域	店舗 (11店舗)	建物及び構築物	61
		機械装置及び運搬具	0
		その他(有形固定資産)	1
関東地域	店舗 (21店舗)	建物及び構築物	200
		機械装置及び運搬具	0
		その他(有形固定資産)	10
		のれん	71
		その他(投資その他の資産)	5
東海地域	店舗 (7店舗)	建物及び構築物	21
		その他(有形固定資産)	0
	製造設備	建設仮勘定	374
中部地域	店舗 (10店舗)	建物及び構築物	33
		機械装置及び運搬具	0
		その他(有形固定資産)	0
関西地域	店舗 (9店舗)	建物及び構築物	71
		その他(有形固定資産)	6
		その他(投資その他の資産)	0
中国地域	店舗 (5店舗)	建物及び構築物	9
四国地域	店舗 (3店舗)	建物及び構築物	6
		その他(有形固定資産)	1
九州地域	店舗 (3店舗)	建物及び構築物	14
		地熱発電	建物及び構築物
		機械装置及び運搬具	95
		建設仮勘定	232
		その他(投資その他の資産)	7
合計			1,231

当社グループは原則として、事業用資産については、店舗・工場等の単位を基礎にグルーピングを行っており、投資不動産、遊休資産及び処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスまたはマイナスとなる見込みである資産グループ、並びに移転または閉鎖することが決定しており、除却資産等が生ずることが確実な資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額あるいは使用価値により測定しております。正味売却価額は、処分見込価額を基に算定した金額により評価しており、使用価値は将来キャッシュ・フローに基づく金額により評価しております。また、将来キャッシュ・フローに基づく金額がマイナスの場合は、回収可能価額は零と算定しております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数 普通株式 68,400,000株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	1,734	65	2018年10月31日	2019年1月31日

(注) 当社は、2018年11月1日付で普通株式について1株につき2株の割合で株式分割を行っております。なお、上記配当金額につきましては、当該株式分割前の実際の数値を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

2020年1月30日開催の定時株主総会の議案として、配当に関する事項を次のとおり提案しております。

株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
普通株式	2,150	利益剰余金	40	2019年10月31日	2020年1月31日

(注) 配当金の総額には役員向け株式交付信託が保有する自社の株式に対する配当金1百万円を含めております。

3. 当連結会計年度末の新株予約権 (権利行使期間の初日が到来していないものを除く。)の目的となる株式の種類及び数 普通株式 871,200株

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金及び安全性の高い金融資産に限定し、また、資金調達については銀行借入及び社債発行による方針です。デリバティブは、仕入債務の為替変動リスク及び借入金金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの社内規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を四半期ごとに把握する体制としています。

投資有価証券のうち時価のあるものは、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握する体制としております。また時価のないものは、信用リスクに晒されておりますが、1年ごとに発行体の財務状況等を把握し管理しております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内に決済されます。その一部に外貨建てのものがあり、為替変動リスクに晒されていますが、先物為替予約取引等によりヘッジする場合があります。

借入金のうち、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を除く）は主に運転資金に係る資金調達であり、長期借入金は主に当社及び子会社の設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものについては、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

預り保証金はフランチャイズ契約に基づき、取引先から預っている取引保証金であり、利息等は付与しておらず、フランチャイズ契約を解消する場合に返金する義務があります。

#### (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年10月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	71,525	71,525	—
(2) 受取手形及び売掛金	16,397		
貸倒引当金	△94		
	16,302	16,302	—
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	118	117	△0
その他有価証券	98	98	—
(4) 敷金及び保証金	366		
貸倒引当金	△56		
	310	312	1
(5) 買掛金	21,897	21,897	—
(6) 短期借入金	350	350	—
(7) 未払法人税等	4,206	4,206	—
(8) 社債(*1)	2,997	3,010	13
(9) 長期借入金(*2)	55,848	56,127	279
(10) デリバティブ取引	147	147	—

(\*1) 1年内償還予定の社債1,543百万円については、社債に含めて表示しております。

(\*2) 短期借入金として表示している1年内返済予定の長期借入金13,504百万円については、長期借入金に含めて表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、売掛金に対応する貸倒引当金は控除しております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。なお、債券は取引金融機関から提示された価格等によっております。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は一定期間ごとに分類し、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。なお、保証金に対応する貸倒引当金は控除しております。

(5) 買掛金、(6) 短期借入金、(7) 未払法人税等

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) 社債、(9) 長期借入金

社債及び長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(10)②)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(10) デリバティブ取引

① ヘッジ会計が適用されていないもの：取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額または契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建  米ドル	5,790	4,619	147	147

② ヘッジ会計が適用されているもの：ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額または契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)		時価	当該時価の 算定方法
				うち 1年超		
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	16,487	12,565	(*)	

(\*)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金を時価に含めて記載しております(上記(9)参照)。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式(※1)	280
敷金及び保証金(※2)	3,184
預り保証金(※3)	6,179

(※1)非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、(3)投資有価証券には含まれておりません。

(※2)敷金及び保証金のうち、将来キャッシュ・フローを合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、(4)敷金及び保証金には含めておりません。

(※3)預り保証金については、将来キャッシュ・フローを合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

(注3)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	71,525	—	—	—
受取手形及び売掛金	16,397	—	—	—
満期保有目的の債券	—	118	—	—
敷金及び保証金	162	98	46	2
合計	88,085	216	46	2

(注4)社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
短期借入金	350	—	—	—
社債	1,543	1,454	—	—
長期借入金	13,054	41,924	418	—
合計	15,397	43,378	418	—

(賃貸等不動産に関する注記)

重要性がないため記載を省略しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	412円01銭
2. 1株当たり当期純利益	112円67銭

(注)1. 2019年11月1日付で普通株式について1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 役員向け株式交付信託口が保有する当社株式を、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(当連結会計年度末88,000株(株式分割後))。また、「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(当連結会計年度88,000株(株式分割後))。

(重要な後発事象)

2019年9月24日開催の当社取締役会決議に基づき、2019年11月1日付で株式分割を行っております。

1. 株式分割の目的

株式分割により投資単位の水準を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上及び投資家層の更なる拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の概要

(1) 株式分割の方法

2019年10月31日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1株につき2株の割合をもって分割します。

(2) 株式分割により増加する株式数

- ① 株式分割前の発行済株式総数 68,400,000株
- ② 株式分割により増加する株式数 68,400,000株
- ③ 株式分割後の発行済株式総数 136,800,000株
- ④ 株式分割後の発行可能株式総数 256,000,000株

3. 株式分割の日程

基準日公告 2019年10月17日

基準日 2019年10月31日

効力発生日 2019年11月1日

4. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が当連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、(1株当たり情報に関する注記)に記載しております。

(その他の注記)

財務制限条項

当社が、金融機関と締結している金銭消費貸借契約(シンジケートローン等)の一部に、2019年10月末現在、以下の財務制限条項が付されております。

(短期借入金のうち3,691百万円、長期借入金のうち20,060百万円)

- (1) 各年度決算期の末日における当社の貸借対照表において、純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または契約で基準と定める決算期の末日における当社の単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きいほう(\*)の75%の金額以上に維持すること。
- (2) 各年度決算期の末日における当社の連結貸借対照表において、純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または契約で基準と定める決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きいほう(\*)の75%の金額以上に維持すること。
- (3) 各年度決算期の末日における当社の単体の損益計算書上において、2期連続して経常損失を計上しないこと。
- (4) 各年度決算期の末日における当社の連結の損益計算書上において、2期連続して経常損失を計上しないこと。
- (5) 各年度決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における有利子負債の金額から当該貸借対照表における「現金及び預金」の合計金額を控除した金額を、当該決算期に係る当社の連結の損益計算書における「営業損益」及び「減価償却費」の合計金額で除した数値が、2期連続して6.5以上とならないようにすること。
- (6) 2020年10月期以降に終了する各年度決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における有利子負債の金額を当該貸借対照表における「株主資本」及び「その他の包括利益累計額」の合計金額で除した数値が、直前の決算期の末日における数値以下であること。

(\*)2019年10月末現在における、当該決算期の直前期の末日または契約で基準と定める決算期の末日のいずれか大きいほうに該当する決算期は、2018年10月期であります。

# 株主資本等変動計算書

( 2018年11月1日から )  
( 2019年10月31日まで )

(単位：百万円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				利 益 剰 余 金 計 合
		そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 計 合	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 計 合	
				特 別 償 却 準 備 金	別 途 積 立 金			
当 期 首 残 高	64	8,162	8,162	16	405	7	31,547	31,977
当 期 変 動 額								
特別償却準備金の積立			—		17		△17	—
特別償却準備金の取崩			—		△72		72	—
剰余金の配当			—				△1,734	△1,734
当期純利益			—				9,935	9,935
自己株式の処分		251	251					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			—					—
当期変動額合計	—	251	251	—	△55	—	8,256	8,201
当 期 末 残 高	64	8,413	8,413	16	350	7	39,804	40,178

	株 主 資 本		新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 計 合		
当 期 首 残 高	△9,913	30,290	332	30,622
当 期 変 動 額				
特別償却準備金の積立		—		—
特別償却準備金の取崩		—		—
剰余金の配当		△1,734		△1,734
当期純利益		9,935		9,935
自己株式の処分	271	523		523
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	412	412
当期変動額合計	271	8,724	412	9,137
当 期 末 残 高	△9,641	39,015	744	39,759

注：記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券

###### ①子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

###### ②その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) デリバティブ

時価法によっております。

##### (3) たな卸資産

###### ①商品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

###### ②直営店の商品

売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

###### ③製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

###### ④貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)及び2016年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～39年
機械及び装置	4～17年
工具、器具及び備品	2～20年

##### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)による定額法によっております。

##### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担する額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時において費用処理しております。

#### (4) 役員株式給付引当金

役員向け株式交付信託による当社株式の交付に備えるため、社内規程に基づき、各取締役に付与したポイントに応じた株式の支給見込額を計上しております。

### 4. ヘッジ会計の方法

#### (1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているものについては、特例処理を採用しております。

#### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

借入金支払利息を対象に金利スワップ取引によりヘッジを行っております。

#### (3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

#### (4) ヘッジの有効性評価の方法

特例処理の要件を満たしているものについては、有効性の評価を省略しております。

### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当  
事業年度より適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定  
負債の区分に表示する方法に変更しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 6,117百万円

2. 保証債務

下記の関係会社の仕入債務及び酒税債務に対し、連帯保証を行っております。

関原酒造株式会社 35百万円

計 35百万円

3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

(区分掲記したものを除く)

短期金銭債権 950百万円

短期金銭債務 2,929百万円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

売上高 12,289百万円

仕入高 27,980百万円

その他の営業取引高 60百万円

営業取引以外の取引高 388百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	15,089,116	0	416,800	14,672,316
合計	15,089,116	0	416,800	14,672,316

(注)当事業年度末株式数には役員向け株式交付信託が保有する自社の株式44,000株を含めております。

普通株式の当期の減少はストック・オプションの行使(416,800株)によるものです。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	360百万円
賞与引当金	48百万円
役員株式給付引当金	8百万円
減価償却超過額	9百万円
退職給付引当金	92百万円
事業撤退損	183百万円
たな卸資産評価損	1百万円
貸倒引当金繰入超過額	841百万円
減損損失	1,120百万円
資産除去債務	53百万円
未計上の関係会社受取利息	85百万円
その他	73百万円

繰延税金資産合計 2,879百万円

繰延税金負債

特別償却準備金	△184百万円
資産除去債務に対応する除去費用	△27百万円

繰延税金負債合計 △211百万円

繰延税金資産の純額 2,668百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
			役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	(株)神戸物産 エコグリーン ン北海道	49.6 [42.1]	兼任 2名	農産物 の生産	資金の貸付 (注) 1	—	関係会社 長期貸付金	3,999
					資金の回収	—		
					利息の受取 (注) 2	—		
	秦食品(株)	100.0	兼任 2名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	—	関係会社 短期貸付金	649
					資金の回収	638	関係会社 長期貸付金	3,850
					利息の受取 (注) 2	76		
	(株)グリーン ポートリー	100.0	兼任 1名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	—	関係会社 短期貸付金	153
					資金の回収	151	関係会社 長期貸付金	2,037
					利息の受取 (注) 2	39		
	豊田乳業(株)	100.0	兼任 2名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	40	関係会社 短期貸付金	92
					資金の回収	89	関係会社 長期貸付金	1,532
					利息の受取 (注) 2	24		
	宮城製粉(株) (注) 5	100.0	兼任 2名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	250	関係会社 短期貸付金	236
					資金の回収	215	関係会社 長期貸付金	1,844
					利息の受取 (注) 2	31		

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
			役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	(株)朝びき若鶏	100.0	兼任 2名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	—	関係会社 短期貸付金	156
					資金の回収	154		関係会社 長期貸付金
					利息の受取 (注) 2	37		
	(株)麦パン工房 (注) 6	100.0	兼任 1名	PB商品 の製造	資金の貸付 (注) 1	900	関係会社 短期貸付金	146
					資金の回収	126		関係会社 長期貸付金
					利息の受取 (注) 2	25		
	(株)クックイノ ベンチャー	45.5	兼任 1名	子会社の 持株会社	資金の貸付 (注) 1	—	関係会社 短期貸付金	2,315
					資金の回収	—		
					利息の受取 (注) 2	25		
	(株)ジー・テイ スト	54.9 (40.4)	—	外食事業 の展開	社債の引受	—	1年内償 還予定の 関係会社 社債	1,997
					社債の償還	—		
					社債利息の 受取	5		

- (注) 1. 子会社への貸付金に対し、2,725百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において542百万円の貸倒引当金戻入益を計上しております。
2. 貸付金に関しては市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。また、担保は受け入れておりません。なお、(株)神戸物産エコグリーン北海道については、財務状況の悪化に伴い利息の受取を中止しております。
3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。
4. 議決権の所有割合の[ ]内は、緊密な者等の所有割合で外数であります。
5. 2019年3月1日付にて、宮城製粉(株)(合併存続会社)とほとと食品(株)(合併消滅会社)は合併しております。取引金額にはほとと食品(株)(合併消滅会社)の取引額を含めて記載しております。
6. 2019年3月1日付にて、(株)麦パン工房(合併存続会社)と(株)エコグリーン埼玉(合併消滅会社)は合併しております。取引金額には(株)エコグリーン埼玉(合併消滅会社)の取引額を含めて記載しております。

### (1株当たり情報に関する注記)

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 363円08銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 92円85銭  |

- (注) 1. 2019年11月1日付で普通株式について1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」を算定しております。
2. 役員向け株式交付信託口が保有する当社株式を、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(当事業年度末88,000株(株式分割後))。また、「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(当事業年度88,000株(株式分割後))。

### (重要な後発事象)

2019年9月24日開催の当社取締役会決議に基づき、2019年11月1日付で株式分割を行っております。

#### 1. 株式分割の目的

株式分割により投資単位の水準を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上及び投資家層の更なる拡大を図ることを目的としております。

#### 2. 株式分割の概要

##### (1) 株式分割の方法

2019年10月31日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1株につき2株の割合をもって分割します。

##### (2) 株式分割により増加する株式数

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| ① 株式分割前の発行済株式総数  | 68,400,000株  |
| ② 株式分割により増加する株式数 | 68,400,000株  |
| ③ 株式分割後の発行済株式総数  | 136,800,000株 |
| ④ 株式分割後の発行可能株式総数 | 256,000,000株 |

#### 3. 株式分割の日程

基準日公告	2019年10月17日
基準日	2019年10月31日
効力発生日	2019年11月1日

#### 4. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が当事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、(1株当たり情報に関する注記)に記載しております。

## (その他の注記)

### 財務制限条項

当社が、金融機関と締結している金銭消費貸借契約(シンジケートローン等)の一部に、2019年10月末現在、以下の財務制限条項が付されております。

(短期借入金のうち3,691百万円、長期借入金のうち20,060百万円)

- (1) 各年度決算期の末日における当社の貸借対照表において、純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または契約で基準と定める決算期の末日における当社の単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きいほう(\*)の75%の金額以上に維持すること。
- (2) 各年度決算期の末日における当社の連結貸借対照表において、純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または契約で基準と定める決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きいほう(\*)の75%の金額以上に維持すること。
- (3) 各年度決算期の末日における当社の単体の損益計算書上において、2期連続して経常損失を計上しないこと。
- (4) 各年度決算期の末日における当社の連結の損益計算書上において、2期連続して経常損失を計上しないこと。
- (5) 各年度決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における有利子負債の金額から当該貸借対照表における「現金及び預金」の合計金額を控除した金額を、当該決算期に係る当社の連結の損益計算書における「営業損益」及び「減価償却費」の合計金額で除した数値が、2期連続して6.5以上としないようにすること。
- (6) 2019年10月期以降に終了する各年度決算期の末日における当社の連結の貸借対照表における有利子負債の金額を当該貸借対照表における「株主資本」及び「その他の包括利益累計額」の合計金額で除した数値が、直前の決算期の末日における数値以下であること。

(\*) 2019年10月末現在における、当該決算期の直前期の末日または契約で基準と定める決算期の末日のいずれか大きいほうに該当する決算期は、2018年10月期であります。